

松本市中心市街地再設計検討会議 提 言

中核エリアの再設計に向けて
～将来の見取り図（コンセプト・指針・再設計のイメージ）～



令和7年3月24日

目次

1	取組みの背景と検討会議の概要	P 1
2	検討会議の委員名簿	P 2
3	検討経過	P 3
4	中核エリアの範囲	P 4
5	中核エリアの現状と再設計の方向性	P 5
6	中核エリアの再設計に向けた市民の思い	P 6
7	中核エリアの再設計で目指すもの	P 7
8	中核エリアの再設計の3つのコンセプト	P 8～
9	3つのコンセプトに基づく「5つの指針」	P 12
10	「5つの指針」について	P 13
11-1	再設計のイメージ 指針①	P 14～
11-2	再設計のイメージ 指針②	P 21～
11-3	再設計のイメージ 指針③	P 23～
11-4	再設計のイメージ 指針④	P 25～
12	再設計のイメージ 指針①～④統合版	P 27～
13	再設計のイメージ 指針⑤	P 29～
14	中核エリアの再設計デザインシート	P 31
15	段階的な取組みスケジュール	P 32
	〔資料編〕 会議記録・参考資料等	P 33

1 取組みの背景と検討会議の概要

松本PARCO・井上百貨店の閉店

昭和の区画整理事業から50年以上が経過

当時建設された建物の多くが改築や建替えの時期を迎えている

松本駅周辺から松本城までの「中核エリア」を「まちの顔」として再生

中心市街地再設計検討会議（各分野の代表者10名＋アドバイザー）

目的

- ▶ 松本駅周辺から松本城までの「中核エリア」を再設計
- ▶ 将来に向けた骨太な指針・新たな見取り図を取りまとめ

所掌事項

- ① 松本駅周辺から松本城に至る公共空間の再編
- ② 松本駅周辺で民間投資を促進する環境の整備
- ③ 再活性に係る段階的な取組み・スケジュール

各種団体と意見交換

ワークショップ

市公式LINEを通じた
意見募集

フォーラム

市長に中核エリアの指針・将来の見取り図を提言

2 検討会議の委員名簿

【委員】

役 職	氏 名	所属・団体等	分 野
座長	赤羽 眞太郎 氏	松本商工会議所 会頭	経済
座長代理	山本 達也 氏	清泉女子大学文学部地球市民学科 教授 松本「シンカ」推進会議 座長	有識者〔公共政策〕
委員	中島 直人 氏	東京大学大学院工学系研究科 教授〔都市デザイン研究室〕 松本市景観審議会委員	有識者〔都市デザイン〕
//	高倉 明子 氏	長野県建設部 まちづくり支援アドバイザー (元建設部 参事兼都市・まちづくり課課長)	有識者〔都市計画〕
//	小林 史成 氏	アルピコ交通(株) 代表取締役社長	公共交通・観光
//	下大園 浩 氏	東日本旅客鉄道(株) 執行役員 長野支社長	公共交通・観光
//	齊藤 茂行 氏	(一社) 松本観光コンベンション協会 会長	観光
//	伊藤 慶 氏	松本商工会議所商業アドバイザー/松本まちなかアートproject運営会議委員	商業・文化芸術
//	花岡 由梨 氏	松本商店街連盟理事 行事委員長	サービス業・イベント
//	小林 篤史 氏	長野県旅館ホテル組合会 青年部会長	宿泊

【アドバイザー】

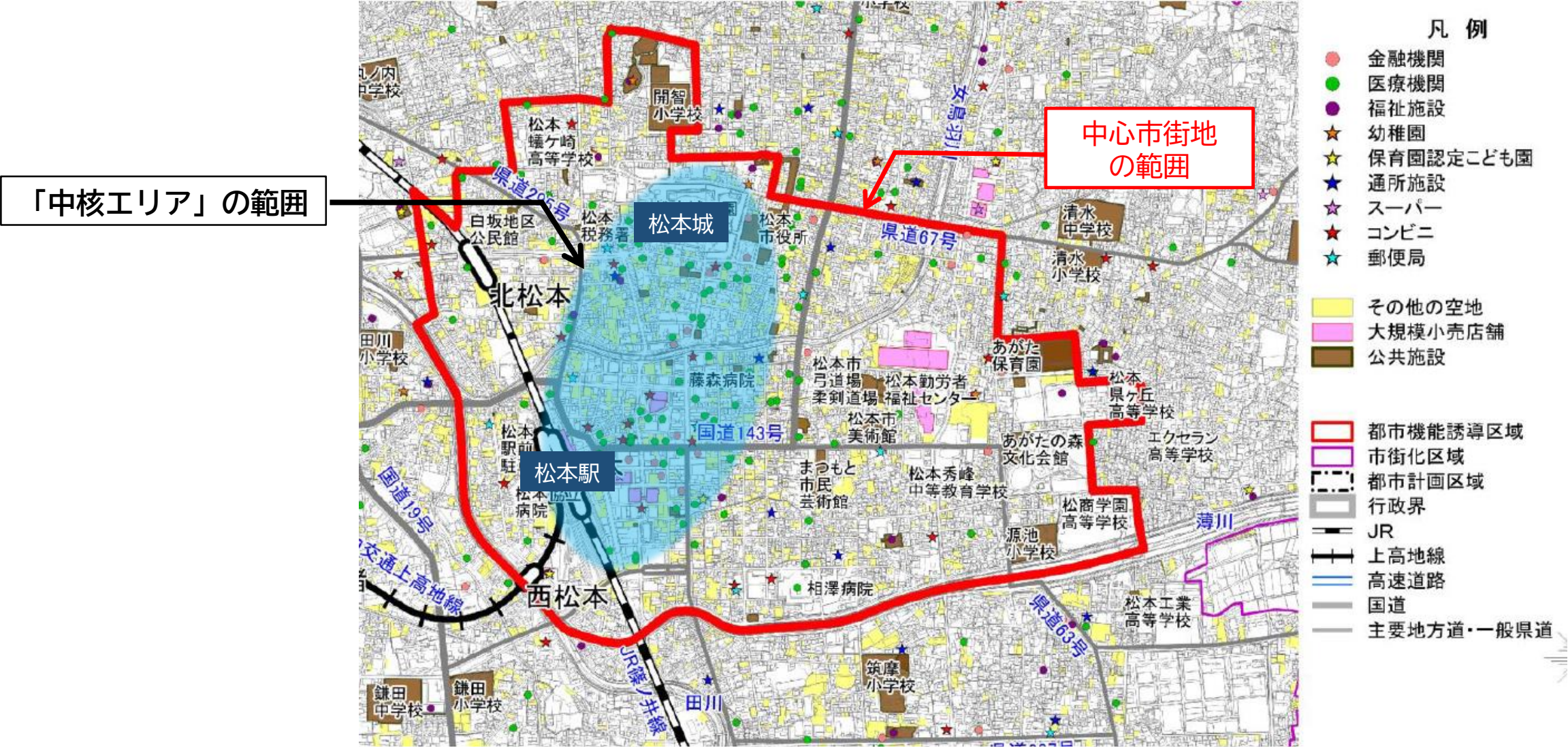
氏 名	所属・団体等	分 野
園田 聡 氏	(有)ハートビートプラン 代表取締役	有識者〔松本城三の丸エリアビジョン策定事業者〕

3 検討経過

会議等	内 容
第 1 回検討会議（7/29）	・ 中核エリアの課題を共有し、現在の取組みから見える今後の方向性について議論 ・ 第 2 回検討会議に向けて検討テーマを共有
意見交換①（8/22）	・ 松本都市デザイン学習会と意見交換　【出席者】 山本座長代理、園田アドバイザー、事務局、団体の代表者 6 名
意見交換②（8/22）	・ 松本商工会議所商業部会・まちづくり委員会と意見交換 【出席者】 山本座長代理、園田アドバイザー、事務局、団体の代表者 4 名
意見交換③（8/23）	・ まつもとユニバーサルデザイン研究会と意見交換 【出席者】 山本座長代理、園田アドバイザー、事務局、団体の代表者 6 名
意見交換④（9/27）	・ 信州大学の「松本の地域課題」を研究するゼミ生（19 人）と、中心市街地の活性化等をテーマに意見交換
第 2 回検討会議（9/30）	・ 第 1 回検討会議及び各種団体との意見交換を踏まえ、各検討テーマについて議論
意見交換⑤（10/9）	・ 建築士事務所協会松筑支部及び建築士会松筑支部と意見交換　【出席者】 事務局、各団体の代表者 10 名
第 1 回市民ワークショップ（10/14）	・ 高校生、大学生を対象に「松本のミライを考えるワークショップ」を開催 【参加者】 高校生 15 名、大学生 17 名　計 32 名
市公式LINEを通じた意見募集 （8/9～10/31）	・ 中心市街地の再設計・再活性に向けた意見及びアイデアを募集 【意見数】 528 件　10 代～30 代：257 件（49％）、40 代以上：271 件（51％）
第 2 回市民ワークショップ（11/16）	・ 公募により「松本のシンカを考えるワークショップ」を開催し、松本市総合計画の策定及び中心市街地の再設計に向けて「魅力的な中心市街地に」等をテーマに議論　【参加者】 29 名
意見交換⑥（11/22）	・ 松本「シンカ」推進会議において、中核エリアの将来の見取り図（案）について意見交換
第 3 回検討会議（11/29）	・ 中核エリアの将来の見取り図（案）について議論
中心市街地再設計市民フォーラム （12/15）	・ 中核エリアの将来の見取り図（案）について報告するとともに、ゲストスピーカーを迎えて意見交換 【登壇者】 検討会議：山本座長代理、園田アドバイザー ゲストスピーカー：山下裕子氏（全国まちなか広場研究理事）、斉藤博一氏（㈱パルコ松本店店長）
第 4 回検討会議（2/14）	・ 市長への提言内容について議論

4 中核エリアの範囲

- 中心市街地のうち、松本駅周辺から松本城までの範囲が「中核エリア」



出典：「松本市立地適正化計画」(H28年度、H30年度一部改訂)

5 中核エリアの現状と再設計の方向性

● 松本市全体

- (課題)
- 市域の南側へのＤＩＤの広がり
 - 大型商業施設の郊外出店
 - 公共交通の利便性が低い（都市特性評価）
 - 若手人材の転入が少ない（〃）
 - ２０代・３０代女性の転出超過
 - 地域外へ所得が流出（地域経済循環図）
- (強み)
- 居住、自然環境の満足度が高い（都市特性評価）

● 中核エリア

- (課題)

 - ・ インターネットによる買い物の増加
 - ・ 歩行者通行量の減少
 - ・ 空き地、駐車場の増加
 - ・ 商業経営者の高齢化

(強み)

 - ・ 文化・歴史・伝統への接触機会が多い（都市特性評価）
 - ・ まつもとまちなかアートprojectの推進

● 松本駅周辺

- (課題)
- ・ 民間ビルの多くが改築や建替えの時期
 - ・ 民間ビルの建替え後は多くがマンション
 - ・ 松本駅・バス利用者がコロナ前の水準に回復しない
 - ・ 松本駅お城口周辺の交差点が渋滞
 - ・ 若者を始めとした多くの人が集まれる居場所がない
 - ・ 井上百貨店の閉店（R 7. 3）
- 

● 松本城周辺（本町・伊勢町を含む）

- (課題) ・伊勢町商店街振興組合の解散 (R 5. 3) 
・松本P A R C Oの閉店 (R 7. 2)
- (強み) ・松本城南・西外堀復元などの公共空間の整備
・松本城三の丸エリアビジョンの推進 (R 4 ~)
・松本城の外国人入場者数は過去最高を記録 (R 5)

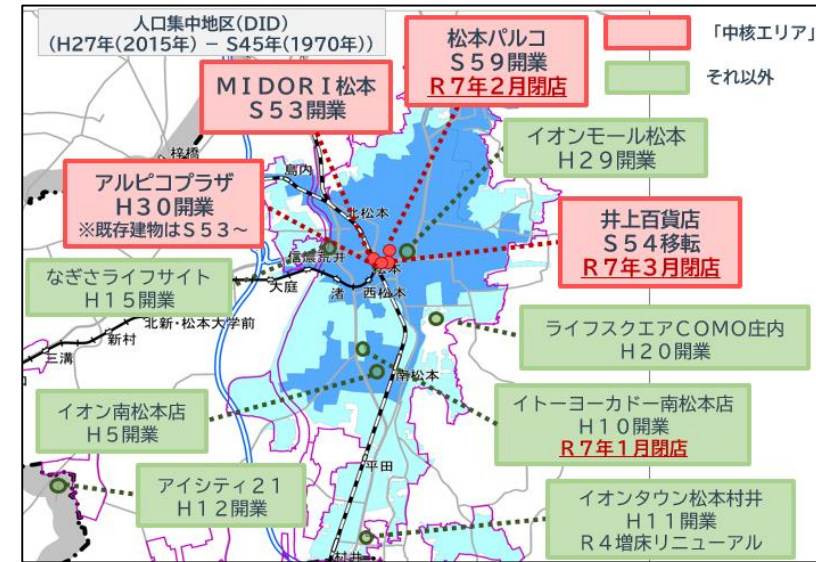
●再設計の方向性

- 持続可能なモビリティへの転換
- 若者がチャレンジができる環境
- 経済・社会・環境の調和

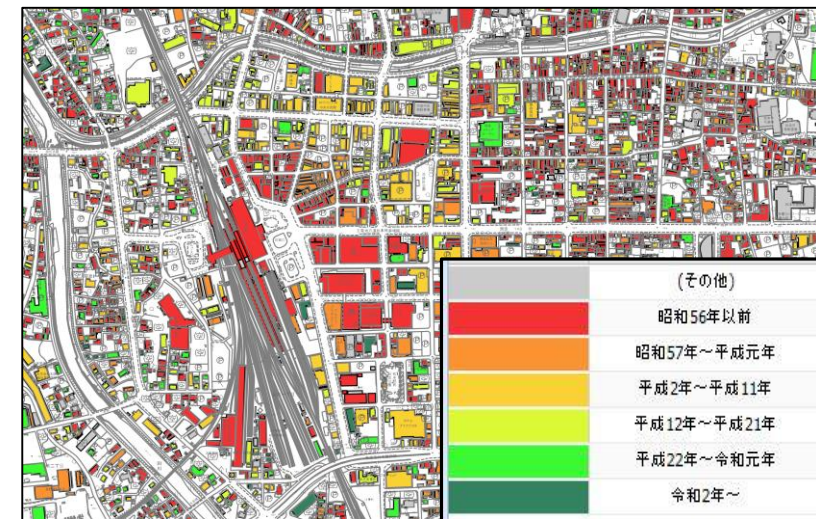
- 商都の魅力のアップデート
- 歩行者優先の歩きたくなる空間
- 松本らしさの追求

- 松本駅と周辺のインフラ更新
- 安心・自由に移動できる空間
- 多くの人が集まれる居場所

- 魅力的なパブリックスペース
- あらゆる人に居心地がよい空間
- 多様な人が関わり続けるまちづくり



(出所) 第1回検討会議資料「人口集中地区と大型商業施設の出退店」



(出所) 第1回検討会議資料「松本駅周辺の建築年別現況」

6 中核エリアの再設計に向けた市民の想い

市公式LINEを通じた意見募集

- 遊び場や商業施設の不足、交通の利便性、地域の魅力向上に関する意見が多く寄せられていて、これらの要望が今後のまちづくりに反映されることが期待されています。

1 遊び場の不足

- 松本市には未就学児が遊べる室内施設が少なく、特に、雨や雪の日に子どもを安心して遊ばせられる施設を望む声が多い。

2 商業施設等の再開発

- 「子育て支援施設や図書館を設置してほしい」との意見が多く、若者や家族連れが楽しめる場所を望む声が多い。

3 交通の利便性

- 松本駅を中心に交通機関の充実を望む声が多い。
- 市街地の交通渋滞や駐車場の不足を指摘する声が多く、「駅周辺に駐車場を設置し、交通の利便性を向上させてほしい」との声がある。

4 多世代が楽しめる施設

- 多くの人が楽しめる多目的な施設を望む声が多く、「室内レジャー施設が必要」との意見もある。

5 地域の魅力向上

- 松本の魅力を高めるため、観光資源を活かしたまちづくりや、個性的な店舗の誘致を望む声が多い。
- 「松本らしさを感じられるまちづくりをしてほしい」との声が多く、地域の特色を生かした施設整備が期待されている。

各種団体との意見交換・ワークショップ

- 日常をベースに、居心地が良い場所や歩きたくなるまちなか空間を創出し、松本らしさを守りながら、新たなまちの魅力を創出していくことが期待されています。

1 住んでいる人の暮らし・日常がベース

- 日常の豊かさ・多様さがまちの魅力となる。
- マンションが増えればいいわけではなく、新たなまちなか居住のイメージの共有が必要

2 交通・ウォーカブル

- まちなかの記憶は、移動スピードに関係している。
- 未来を見据えた大胆な交通インフラと道路の見直しが必要

3 パブリックスペースの再生

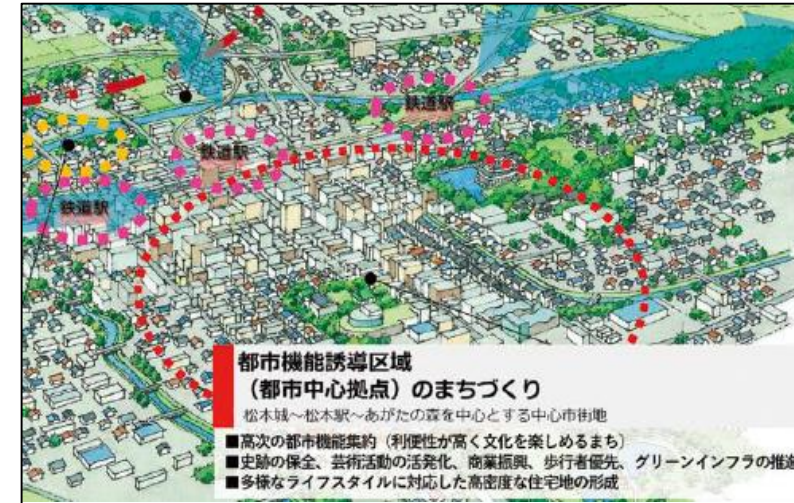
- 中核エリアを再設計するに当たって、多様なパブリックライフは重要なキーワード
- 公園を再生すると周辺に新たな公共空間ができる。

4 松本らしさ

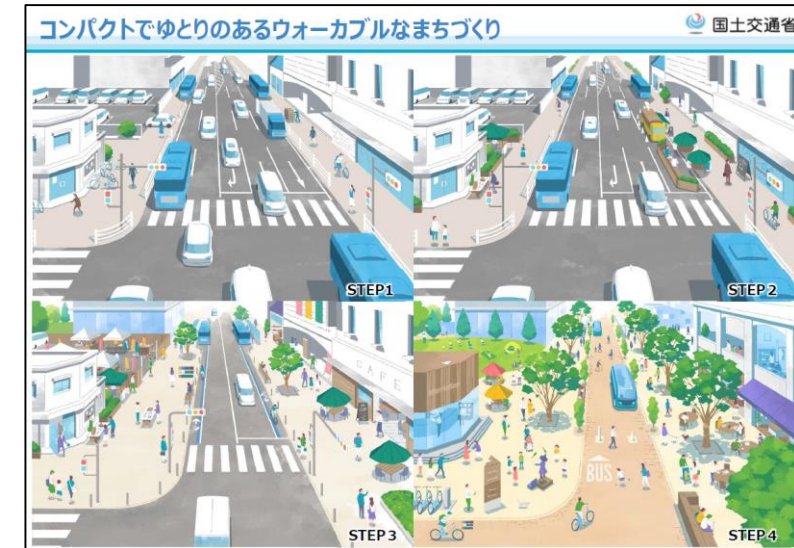
- 自然との繋がりをまちなかで感じつつ、都会的な一面も持ち合わせているのが、松本のまちの特徴
- 自然と文化芸術が身近な松本の良さを伸ばしたい。

5 まちなか整備

- 建てた施設の次回更新を見据える視点が必要
- 駅周辺のインフラや民間ビルの老朽化が深刻であることを踏まえれば、いかに更新しつつ新たなまちの魅力を創出するかが鍵。手段の一つが建物の高さ制限の見直しではあるが、幅広い議論が必要



（出所）第2回検討会議資料「都市計画マスタープランにおける都市構造の基本的な考え方」



（出所）第2回検討会議資料「まちなかウォーカブル推進事業について（国土交通省HPから）」

「パブリックライフ」の充実、“まち”を使って一人ひとりの生活や人生が豊かになること。

- 1967年（S42年）から行った松本駅周辺の土地区画整理事業から50年以上が経過し、社会や人々の意識、サービスに求めるレベルは大きく変化しています。
- この間、急速に増加した自動車交通や、それに伴う街路、駐車場などのインフラ整備によって、城下町特有の狭い町割りを受け継ぐ「中核エリア」は、都市における多くの活動を、限られたパブリックスペースの中で、衝突を避けて何とか機能させることで精一杯の状況に陥っています。
- 一方で、郊外型の商業施設は賑わいを見せており、市民がそれなりの生活の質を感じていることも確かです。車の利便性は、好きな時に好きな場所に、天候に左右されず、重い荷物を気にせずに出かけられることですが、車でのアクセスを基本とした郊外に広がる都市は、車がなければ暮らせないと形容される過度な車依存社会をもたらしています。
- しかし、このような社会は、将来に渡って持続可能なものではなく、歴史と文化を継承した「中核エリア」と日常生活が隔離したまちづくりは、結果的に私たち市民の生活の質を低下させていると言えます。
- そのような中、「中核エリア」が、次の50年で目指すべきものは、まちの土台になる安全・安心に加え、「パブリックライフ」の充実、つまり、“まち”を使って一人ひとりの生活や人生が豊かになること。
- 普段の生活は充実しているかもしれませんが、“まち”に出るとそれ以上の楽しみがあり、その楽しみ方は一人ひとり違います。この「パブリックライフ」の多様なシーンをデザインすることが、結果的に“まち”の賑わいになります。
- そして、松本で暮らす人が豊かなパブリックライフを満喫し、次代を担う若い世代の人たちが集まり活躍しているシーンは、訪れる人にとっても魅力的なものであり、観光客や出張者などの訪れる人にとっての来街動機を増やすとともに、住みたいまちとして松本が選ばれることにも繋がります。
- 検討会議では、「中核エリア」を持続可能で、多様な「パブリックライフ」を提供する場所として再設計するため、将来の見取り図（コンセプト、指針、再設計のイメージ）について提言するものです。

3つのコンセプト

- I 多様なパブリックライフを共創する “まち”
- II 経済・社会・環境が調和した持続可能な “まち”
- III 水と緑に充ちた、文化・アートが溢れる “まち”

8-1 パブリックスペースと“パブリックライフ”

パブリックスペース

街路、小路、広場、公園、井戸・湧水、河川敷など、誰もが自由に過ごせる公共的な環境や空間

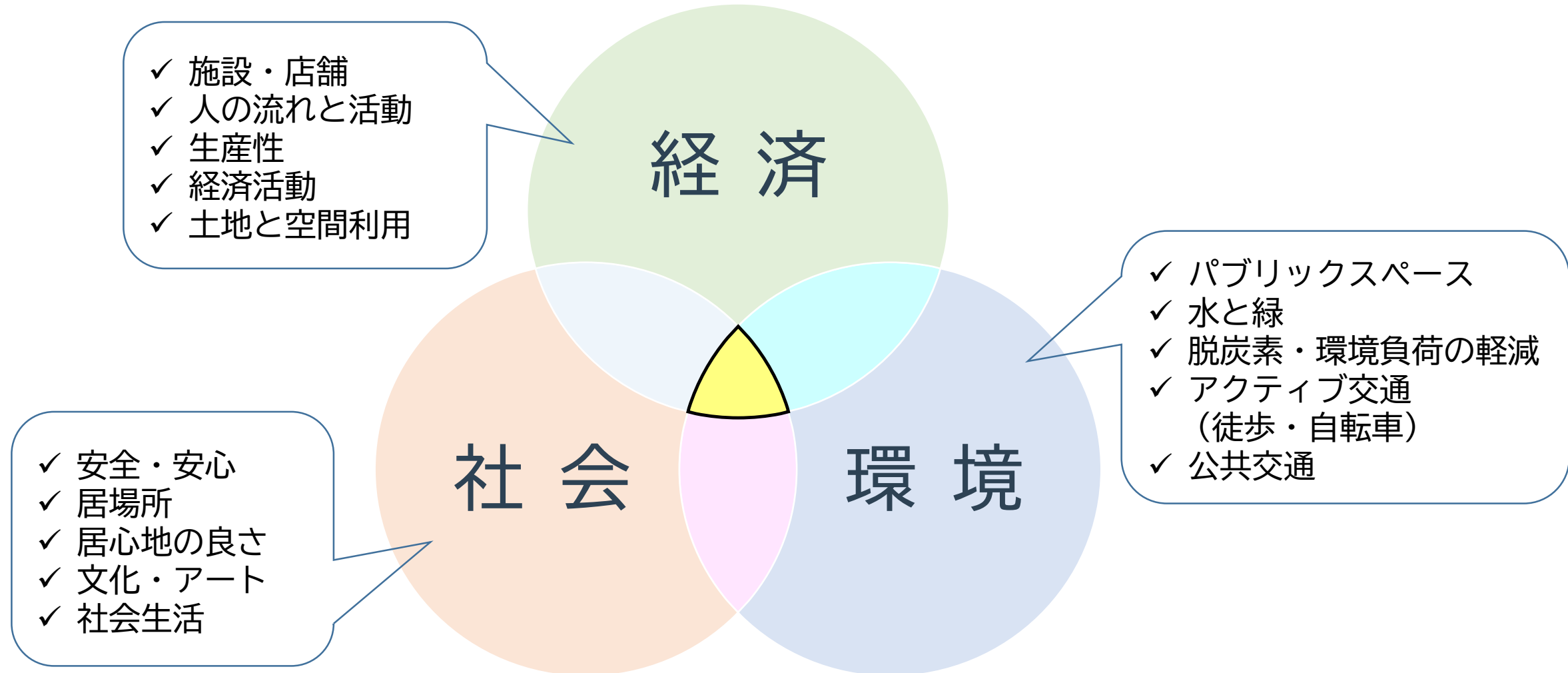
パブリックライフ

学校の行き帰りや放課後のお喋り、バルコニーでのコーヒータイムやご近所さんとの立ち話、広場でのアートイベントやカフェでの観光客との交流など、主にパブリックスペースを舞台に起き得るあらゆる活動のこと。私たちが外に出て目にすることができるすべての出来事



8-2 “まち”に必要な持続可能性の3要素

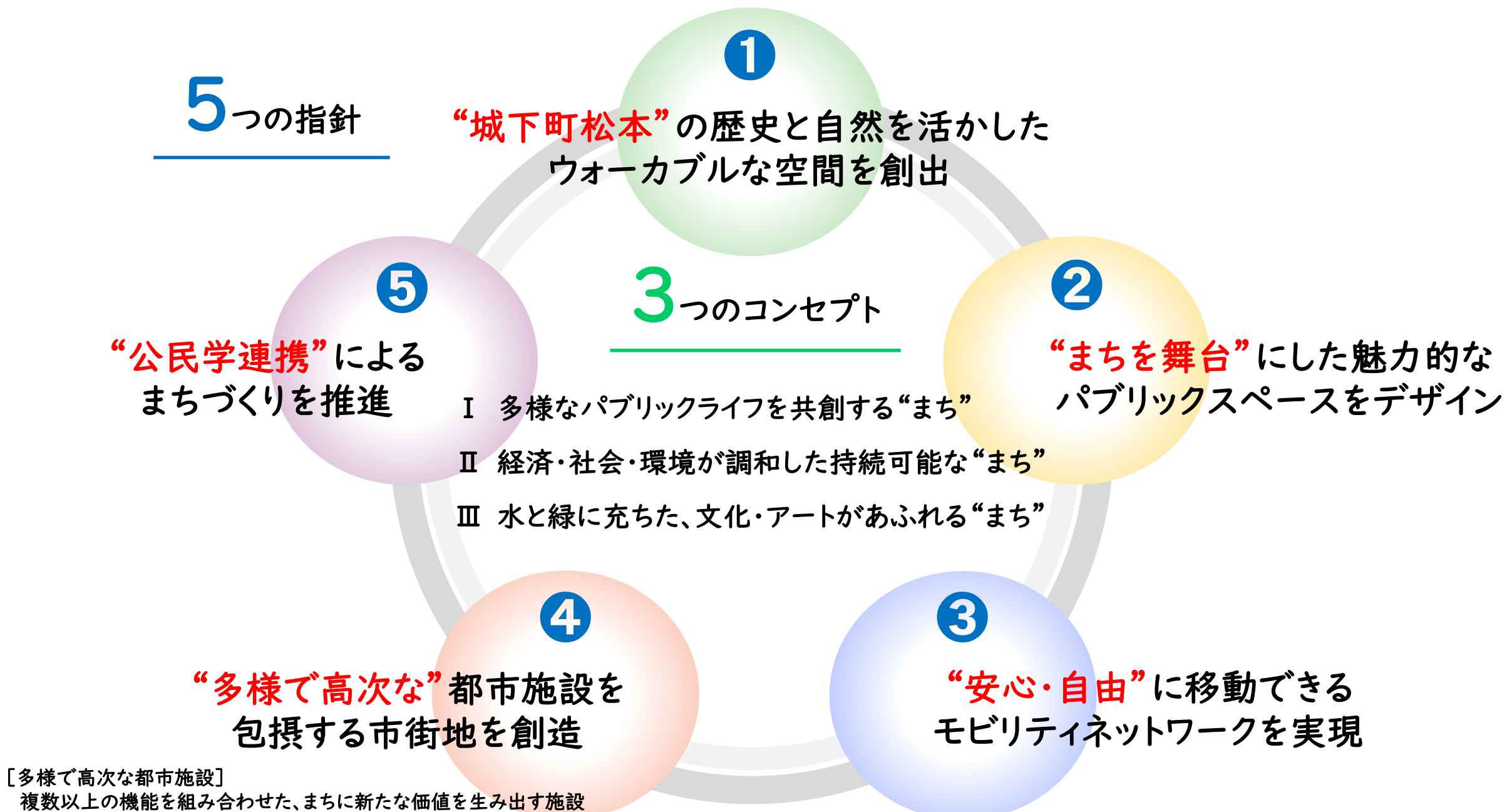
- 市民や企業がそれぞれの最適な行動を選択していった結果として“まち”が持続不可能になることがあります。
(例) すべての移動に車を使用、空き地の駐車場活用、ムクドリや落葉対策のための樹木の強剪定 など
- 持続可能な“まち”とは、経済、社会、環境の3つの側面いずれもが重なり合って調和した状態を言います。



8-3 “松本らしさ”を構成する要素

- 松本の“まちなか”は、城下町として培ってきた歴史や文化を大切にしながら、外からの影響も柔軟に受け入れ、暮らしの質を上手にアップデートしてきた経過があります。
- まちの中央に川が流れ、地下水が豊富なことから井戸や水路が多く、“まちなか”からアルプスを始めとした山並みを眺望できる環境は、他都市とは異なる水と緑への接し方、暮らし方を育んできました。
- 加えて、音楽、演劇、アートなど、“まちなか”で様々な文化芸術に触れる場所や機会が多く、これらの多様な要素が、私たちが感じる“松本らしさ”を形作っています。





[多様で高次な都市施設]
複数以上の機能を組み合わせた、まちに新たな価値を生み出す施設

10 「5つの指針」について

① “城下町松本”の歴史と自然を活かしたウォーカブルな空間を創出

- 城下町はもともと人が歩くことを前提に設計された都市であることを再認識し、車の総量を抑制
- 歴史と文化、豊富な湧水と河川、アルプスを望む眺望、公園と施設・店舗などが1つに繋がった、歩きたくなる空間を創出
- 松本駅を都市軸の起点に、歩行者優先でまちを結び直すことで、新たな人の流れと活動を生み出し、まちなかの生産性を向上

② “まちを舞台”にした魅力的なパブリックスペースをデザイン

- まちに暮らす人、通う人、商売をする人、訪れる人、あらゆる人にとって居心地が良く、出かけたくなる環境整備
- 若者や学生、アーティストなどが、まちなかにおいて自由に活動、表現し、チャレンジができる環境整備
- 多様な主体が行う取組みを、豊かな日常の暮らしのシーンとすることで、住んでいる人の生活の質を向上

③ “安心・自由”に移動できるモビリティネットワークを実現

- 環境負荷を軽減し、モビリティの選択肢が増えるよう、徒歩や自転車のアクティブ交通と公共交通を長期的な視点で改良
- まちの活動を支える社会基盤として、誰もが安心して「自由に移動できる」「動き回ることができる」環境を実現
- 松本駅と駅前広場を核に、交通の量と密度、スピードをリデザインすることで、まちなかの経済活動や社会生活を充実

④ “多様で高次な”都市施設を包摂する市街地を創造

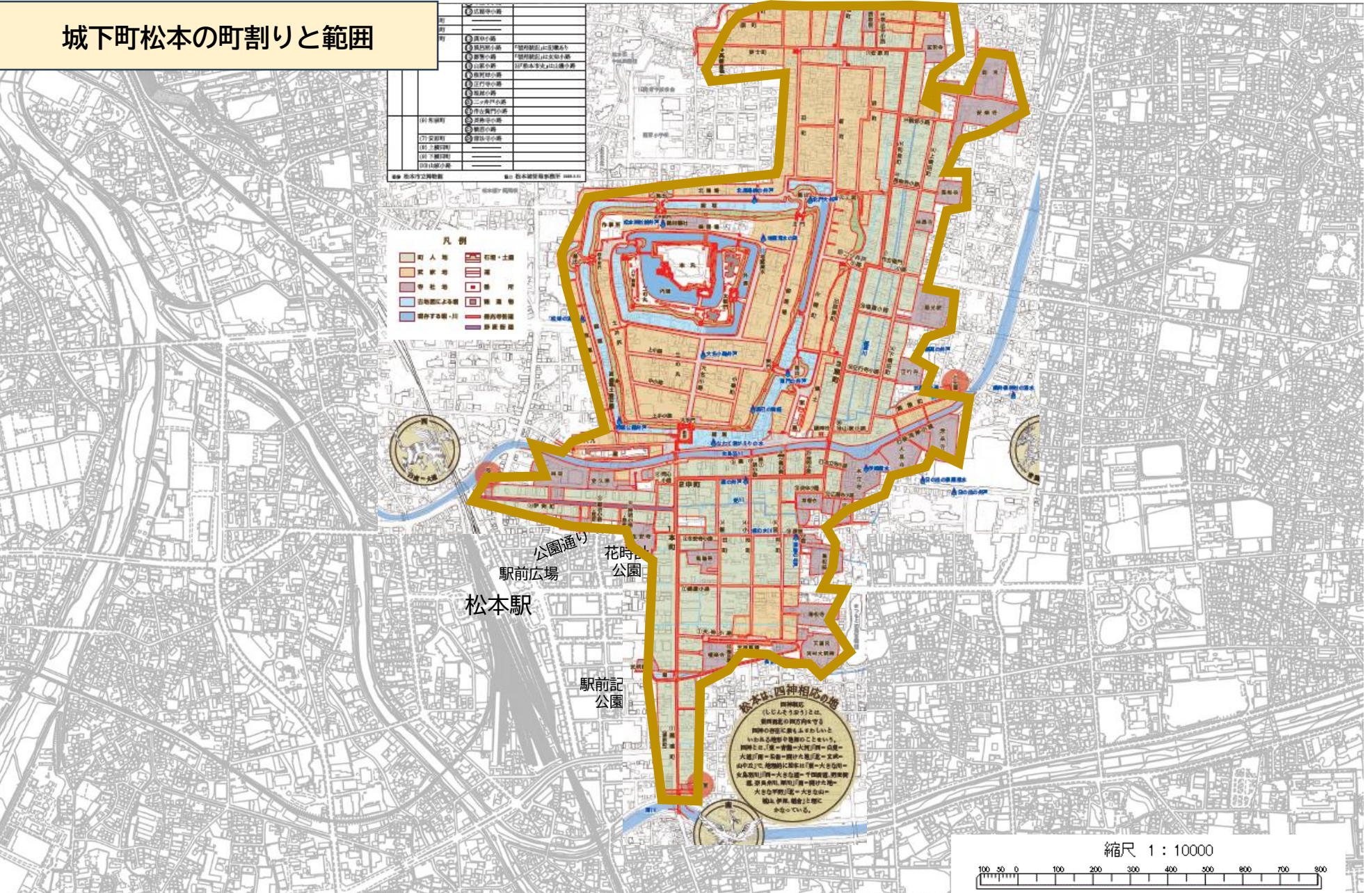
- 商都としての魅力をアップデートし続け、多彩なサービスを提供するとともに、まちに出る楽しみ、ハレの場としての機能を充実
- 住む、働く、学ぶ、集う、憩う、育てる、楽しむなど、多様で高次な都市施設を包摂する土地・空間利用をリデザイン
- 多くの建物が更新時期を迎えている松本駅東地区に、周辺の城下町の歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、市民益に繋がる民間投資を誘導

⑤ “公民学連携”によるまちづくりを推進

- 中・高校生や大学生、若者を始め、まちづくりにかかわる多様な主体が、まちづくりに参画し続ける環境整備
- ①～④の指針に沿ったまちづくりを進めるために、公民学が継続的・多面的に連携できる仕組みを構築
- 公民学の連携を通じて、公益性と事業性の両方を実現するまちづくりを進めることで、まちなかに多様なパブリックライフを共創

再設計のイメージ 指針①

“城下町松本”の歴史と自然を
活かしたウォークブルな空間を創出

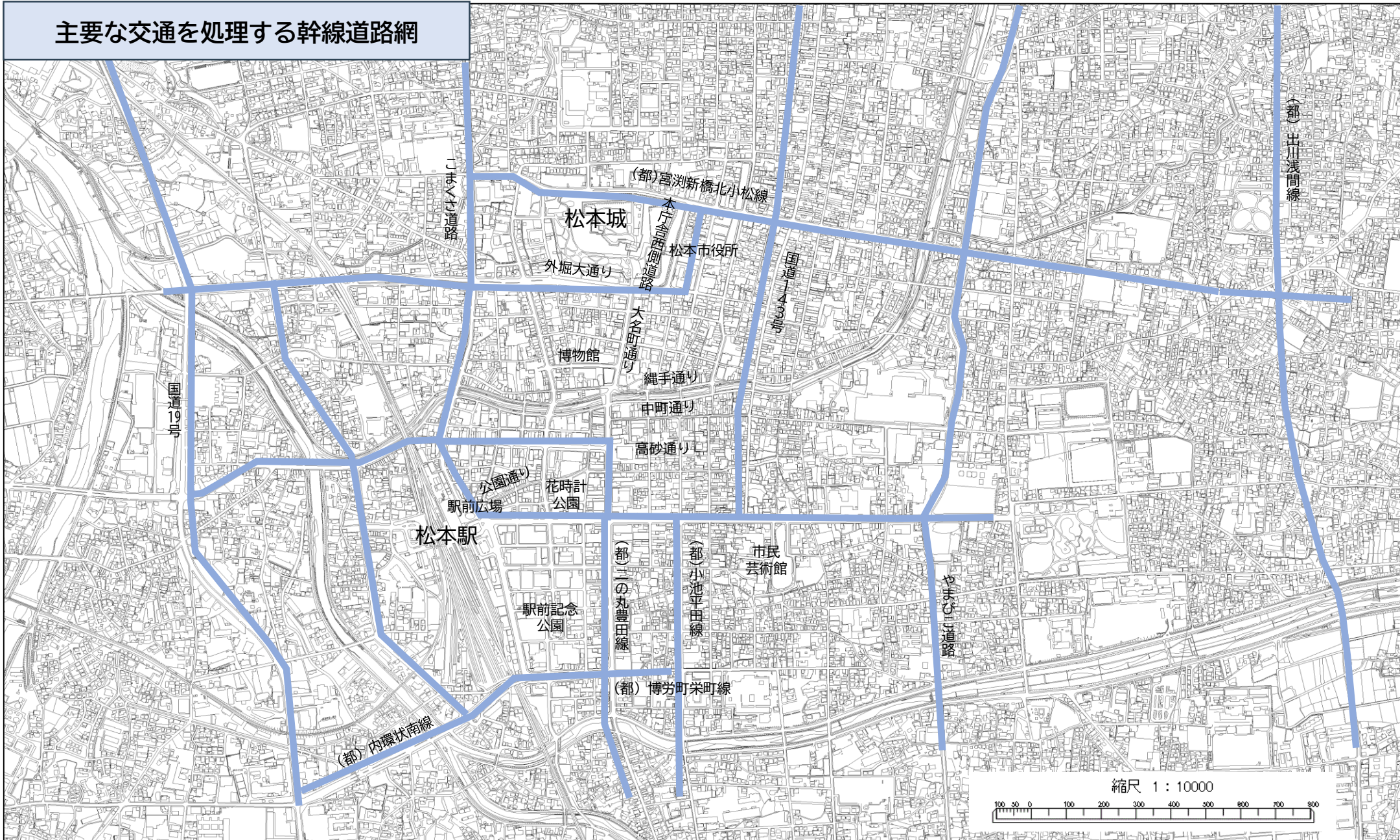


松本らしさを感じられる井戸・湧水やまちなかを流れる女鳥羽川

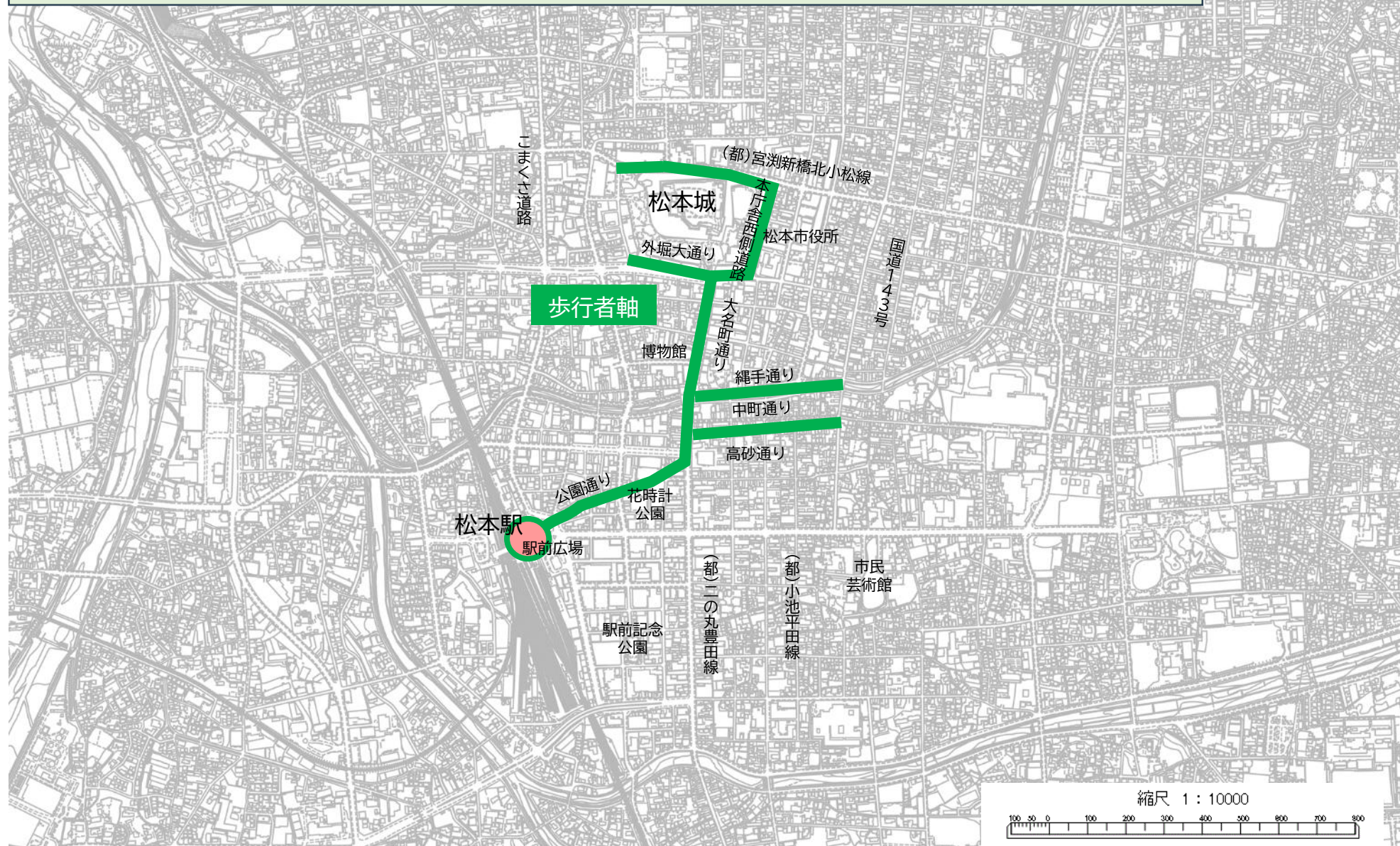


景観計画で設定している眺望景観、景観軸（あがたの森通り）
守るべきシークエンス景観（視点を移動させながら次々移り変わっていくシーンを継続的に体験する空間）





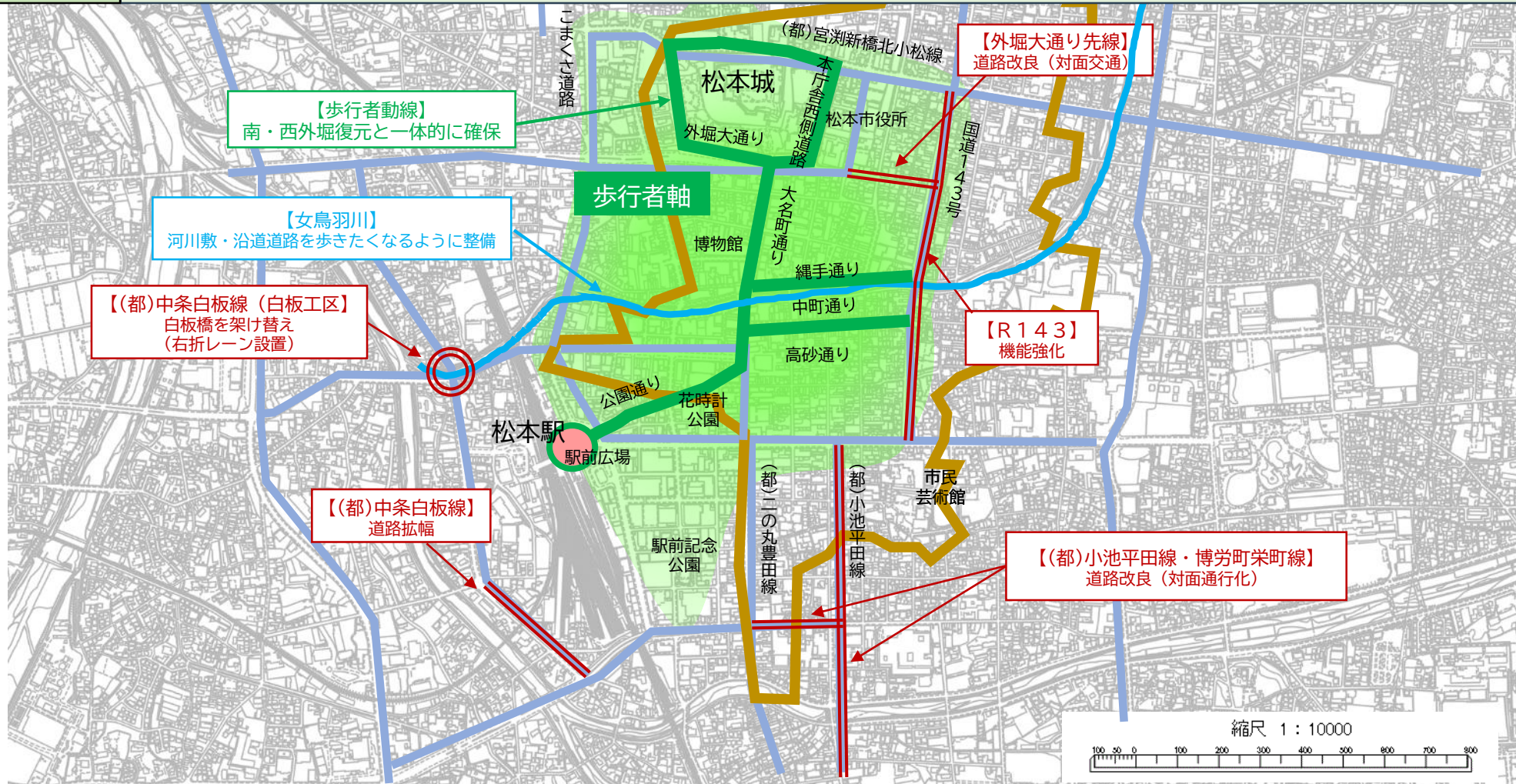
松本駅を都市軸の起点に松本城に至る歩行者軸（まちの歩行者空間の骨格を形成する主要な軸）



11-1 再設計のイメージ 指針① “城下町松本” の歴史と自然を活かしたウォーカブルな空間を創出

指針①に基づき 今後検討が 必要な事項

- 主要な交通を処理する幹線道路とウォーカブルな空間とするストリートを明確化、幹線道路の道路改良と機能強化
- 松本駅から松本城までをウォーカブル区域に設定し、通過交通の流入を抑制し、安全・安心で多様な歩行空間を整備
- 車両通行規制や一方通行化等による道路空間の再配分により歩行者空間を創出
⇒駅前広場から公園通りへ歩行者を誘導する工夫 ⇒公園通り、中町通りにおける恒常的な車両通行規制
- 井戸・湧水と河川、眺望景観、周辺のパブリックスペースと一体となったウォーカブル空間を創出
⇒本庁舎敷地や花時計公園と接続する道路空間の活用
- ウォーカブル区域のグリーンインフラ整備



再設計のイメージ 指針②

“まちを舞台” にした魅力的な
パブリックスペースをデザイン

1 1 - 2 再設計のイメージ 指針② “まちを舞台” にした魅力的なパブリックスペースをデザイン

指針②に基づき 今後検討が 必要な事項

- 松本駅、駅前広場、花時計公園、駅前記念公園、大手門櫓形広場、辰巳の御庭などのパブリックスペースを再設計（再整備）
- 道路や河川等の活用を見据えた再設計（再整備）
- 新庁舎整備に合わせて、現在の本庁舎敷地の在り方を検討
- まちなかアートproject、アーティストバンクの充実により、まちなかで文化芸術に触れる機会を拡充
- 多様な主体による、多様な活動を促進するための規制緩和や手続きの簡便化



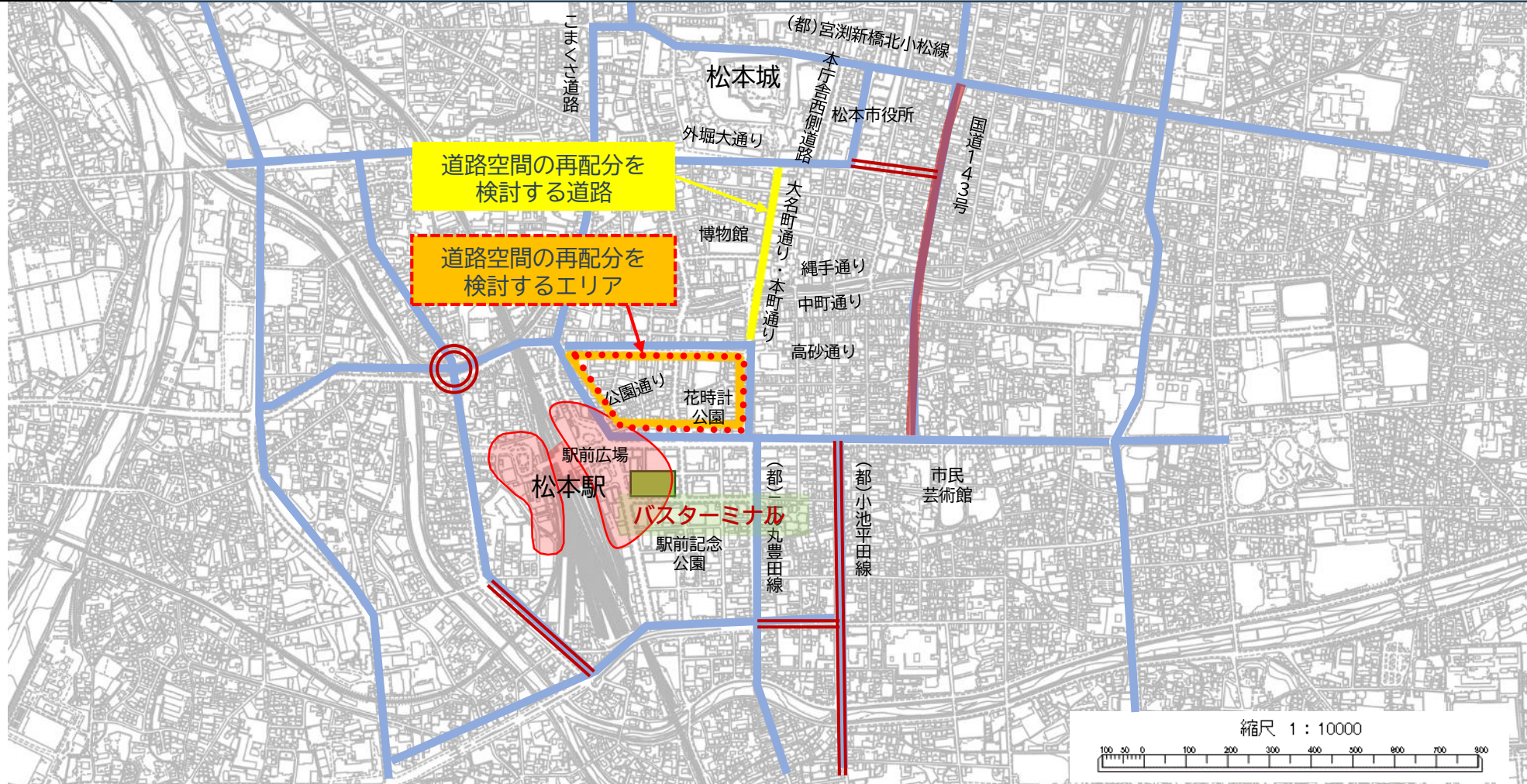
再設計のイメージ 指針③

“安心・自由” に移動できる
モビリティネットワークを実現

1 1 - 3 再設計のイメージ 指針③ “安心・自由” に移動できるモビリティネットワークを実現

指針③に基づき 今後検討が 必要な事項

- 幹線道路の交通処理機能をテクノロジーの活用を含めて強化しつつ、松本駅から松本城までの道路空間を再配分し、歩行者の通行環境の向上と沿道建物の連動を促進
⇒道路空間の再配分により生み出した空間をウォークブル、バス停、荷寄せ空間として活用
- 都市軸の起点である松本駅、駅前広場、バスターミナルを含む一帯を、徒歩や自転車、公共交通を主軸に複数の移動手段がストレスなく繋がり、多くの人が活動する拠点として再設計（再整備）
- 中核エリアへの車の流入を抑制するパークアンドライドやフリンジ駐車場を配置
⇒松本駅アルプス口等に自家用車専用の駐車場を配置



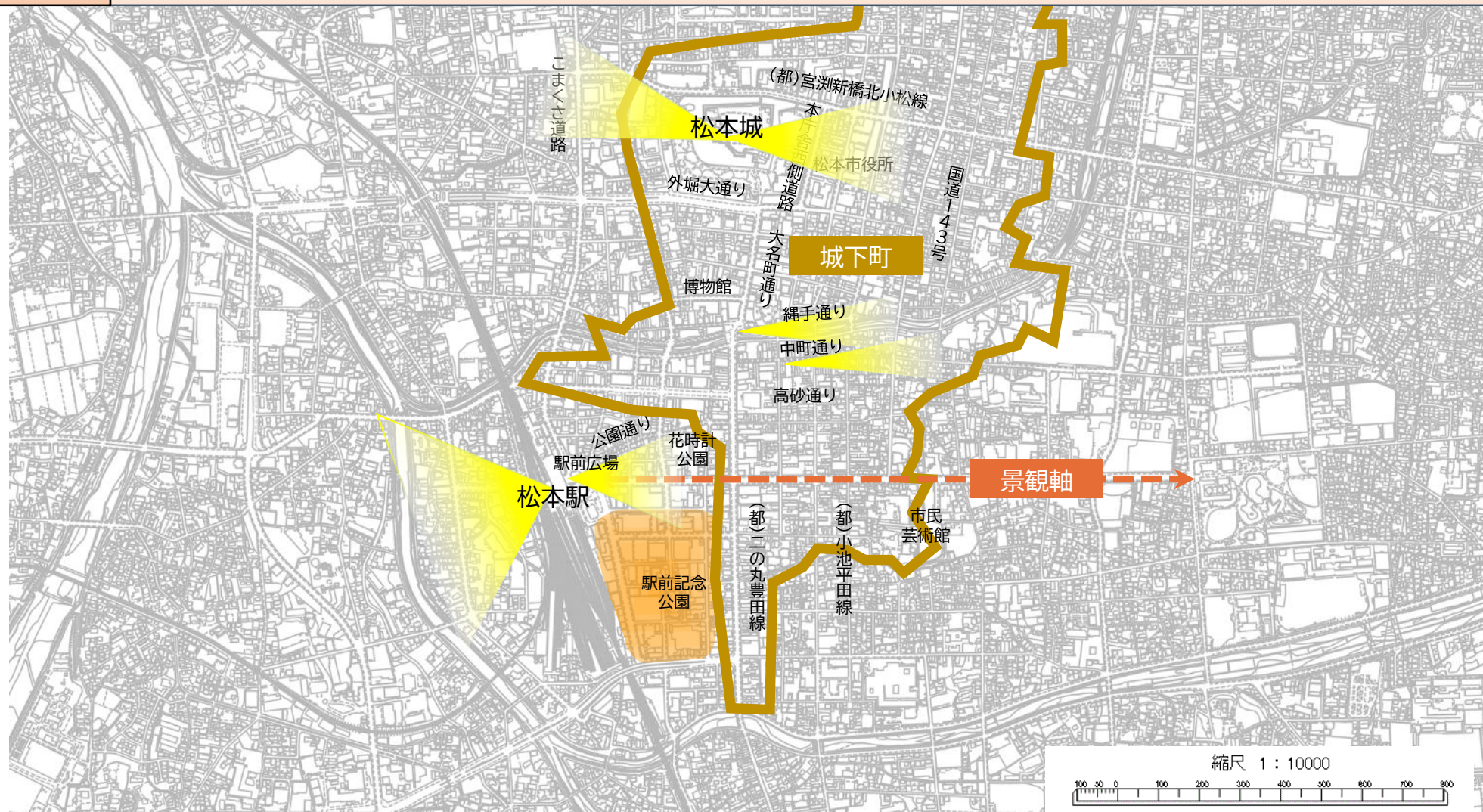
再設計のイメージ 指針④

“多様で高次な” 都市施設を包摂する
市街地を創造

1 1 - 4 再設計のイメージ 指針④ “多様で高次な” 都市施設を包摂する市街地を創造

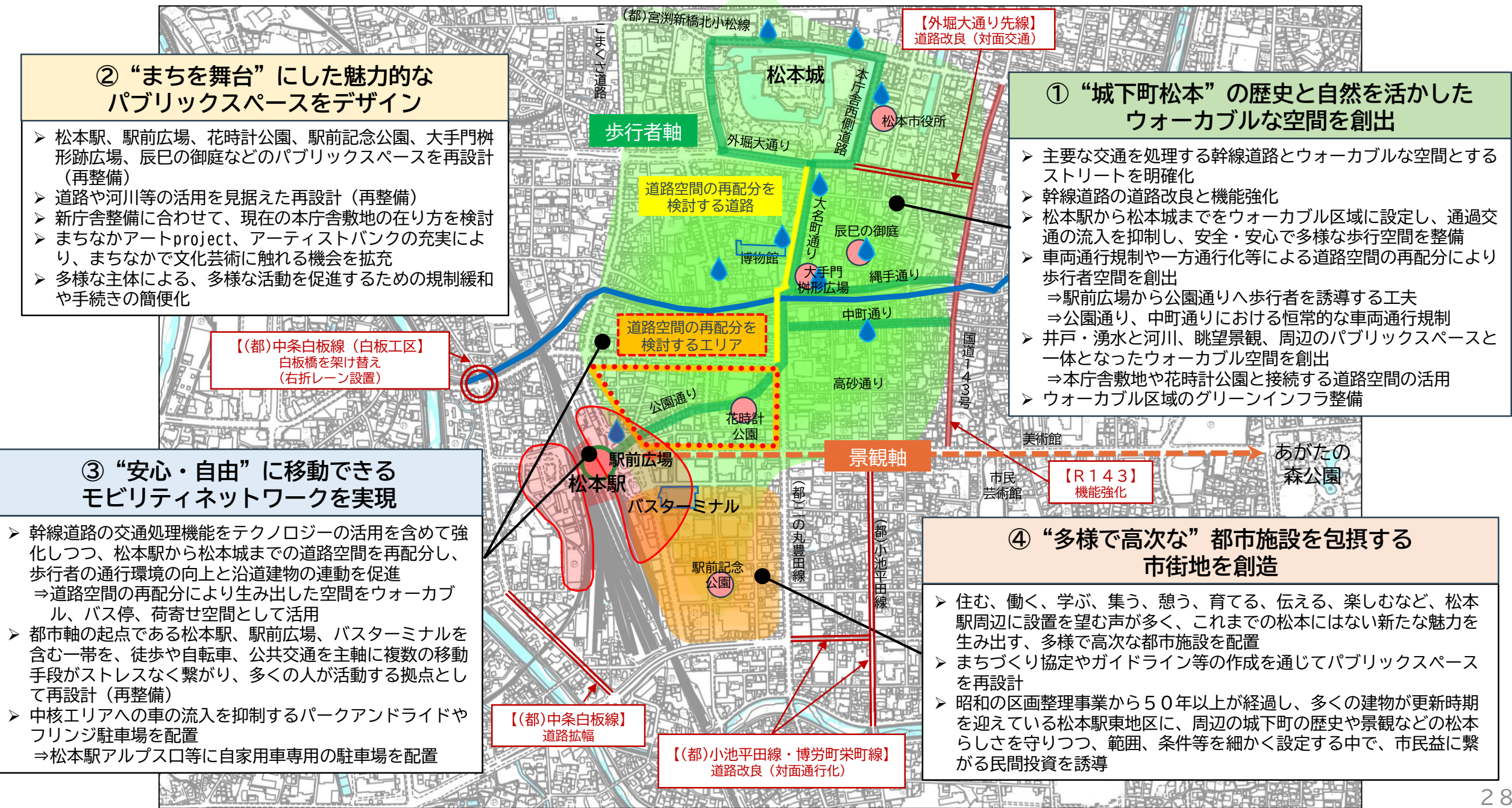
指針④に基づき 今後検討が 必要な事項

- 住む、働く、学ぶ、集う、憩う、育てる、伝える、楽しむなど、松本駅周辺に設置を望む声が多く、これまでの松本にはない新たな魅力を生み出す、多様で高次な都市施設を配置
- まちづくり協定やガイドライン等の作成を通じてパブリックスペースを再設計
- 昭和の区画整理事業から50年以上が経過し、多くの建物が更新時期を迎えている松本駅東地区に、周辺の城下町の歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、範囲、条件等を細かく設定する中で、市民益に繋がる民間投資を誘導



再設計のイメージ 指針①～④統合版

12 再設計のイメージ 指針①～④統合版（指針に基づき今後検討が必要な事項）



再設計のイメージ 指針⑤

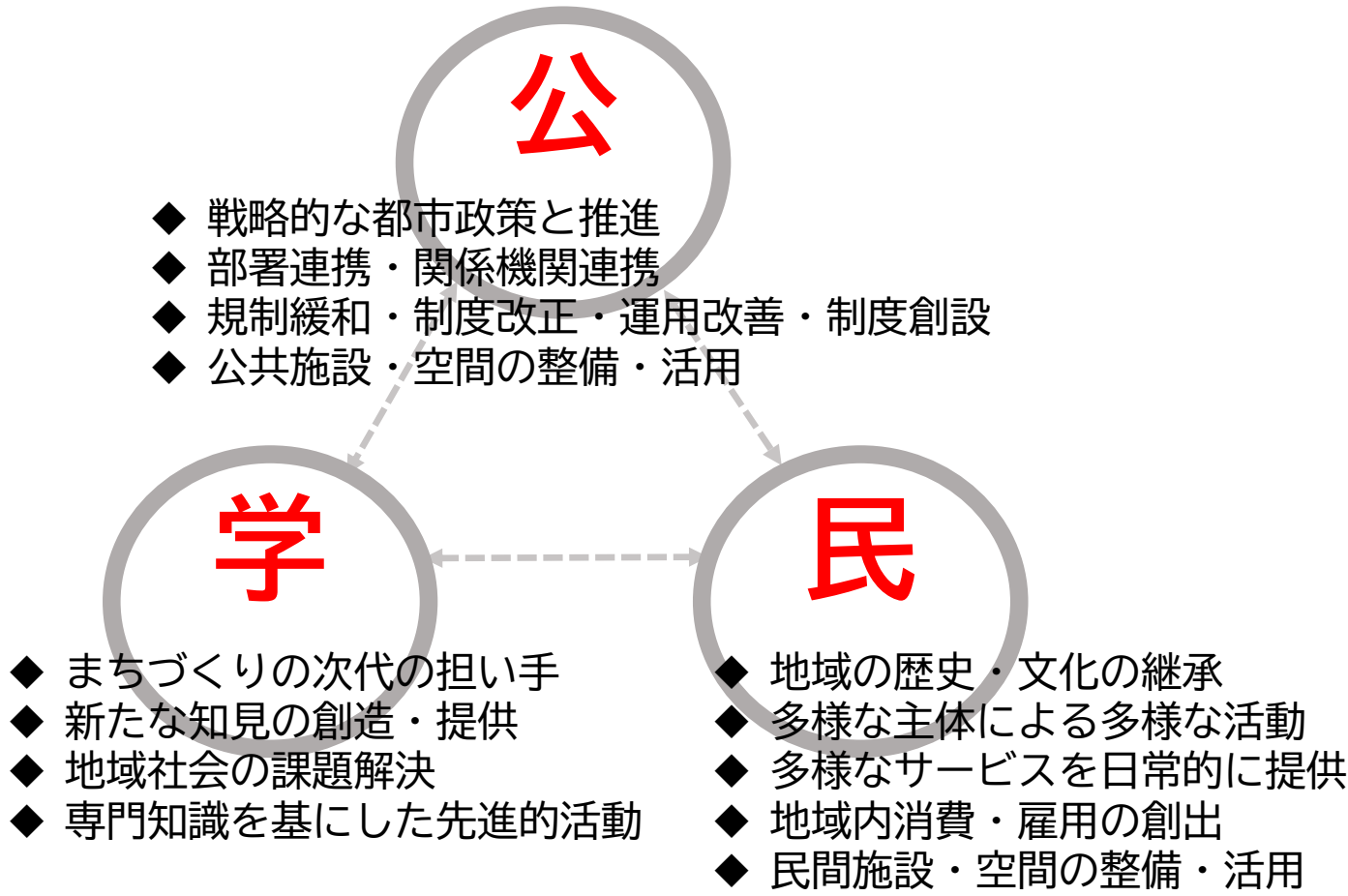
“公民学連携”によるまちづくりを推進

1 3 再設計のイメージ 指針⑤ “公民学連携” によるまちづくりを推進

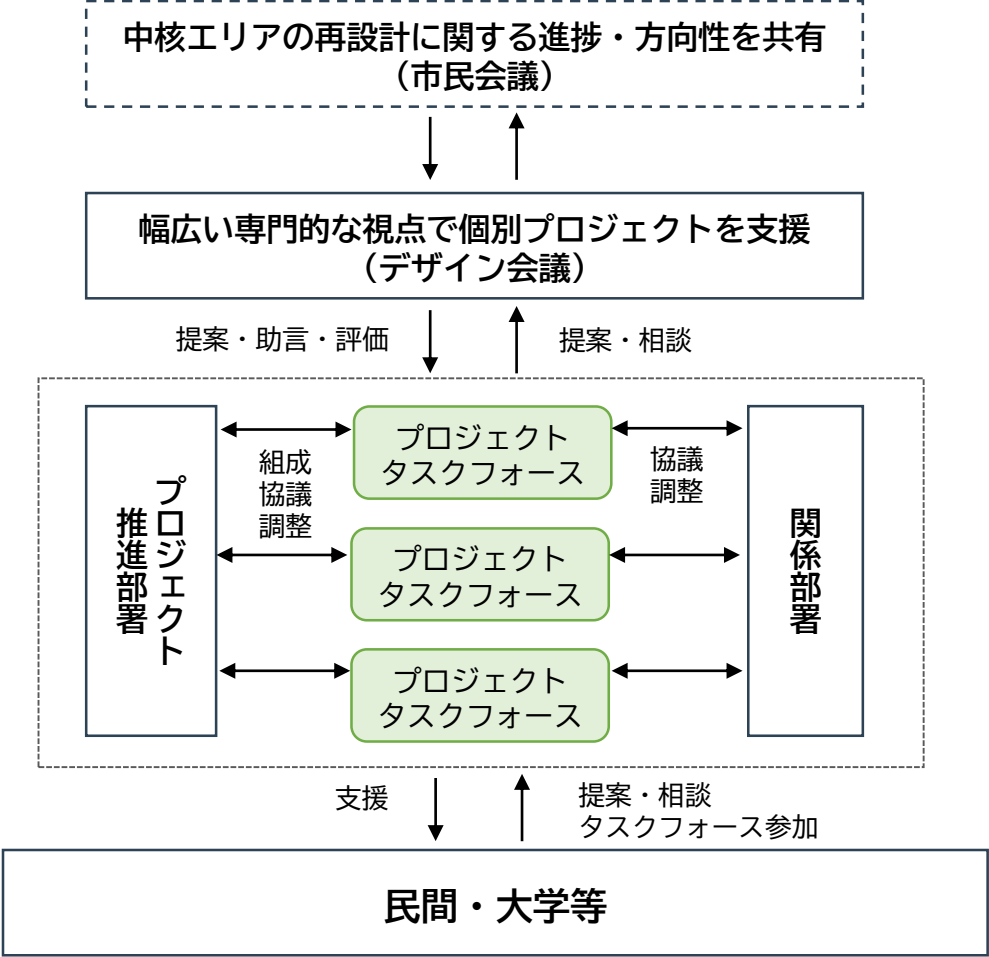
指針⑤に基づき
今後検討が
必要な事項

- 検討会議での議論を引き継ぎ、将来の見取り図の視点から、全体及び個別プロジェクトを繋ぎ進捗管理を行う公民学連携の仕組みを検討
- 公（行政）・民（民間）・学（大学等）がお互いに役割分担しながら連携し、パブリックスペースを活用した社会実験等を実施
- 行政による公共投資とパブリックマインドを持つ民間企業の投資を掛け合わせた各種の公民連携プロジェクトを推進

公・民・学の役割



公民学連携の仕組み（一例）



14 中核エリアの再設計デザインシート

3つのコンセプト	5つの指針		再設計イメージ（今後検討が必要な事項）
Ⅰ 多様なパブリックライフを共創する“まち” Ⅱ 経済・社会・環境が調和した持続可能な“まち” Ⅲ 水と緑に充ちた、文化・アートが溢れる“まち”	① “城下町松本”の歴史と自然を活かしたウォーカブルな空間を創出	● 城下町はもともと人が歩くことを前提に設計された都市であることを再認識し、車の総量を抑制 ● 歴史と文化、豊富な湧水と河川、アルプスを望む眺望、公園と施設・店舗などが1つに繋がった、歩きたくなる空間を創出 ● 松本駅を都市軸の起点に、歩行者優先でまちを結び直すことで、新たな人の流れと活動を生み出し、まちなかの生産性を向上	➢ 主要な交通を処理する幹線道路とウォーカブルな空間とするストリートを明確化 ➢ 幹線道路の道路改良と機能強化 ➢ 松本駅から松本城までをウォーカブル区域に設定し、通過交通の流入を抑制し、安全・安心で多様な歩行空間を整備 ➢ 車両通行規制や一方通行化等による道路空間の再配分により歩行者空間を創出 ⇒駅前広場から公園通りへ歩行者を誘導する工夫 ⇒公園通り、中町通りにおける恒常的な車両通行規制 ➢ 井戸・湧水と河川、眺望景観、周辺のパブリックスペースと一体となったウォーカブル空間を創出 ⇒本庁舎敷地や花時計公園と接続する道路空間の活用 ➢ ウォーカブル区域のグリーンインフラ整備
	② “まちを舞台”にした魅力的なパブリックスペースをデザイン	● まちに暮らす人、通う人、商売をする人、訪れる人、あらゆる人にとって居心地が良く、出かけたくなる環境整備 ● 若者や学生、アーティストなどが、まちなかにおいて自由に活動、表現し、チャレンジができる環境整備 ● 多様な主体が行う取組みを、豊かな日常の暮らしのシーンとすることで、住んでいる人の生活の質を向上	➢ 松本駅、駅前広場、花時計公園、駅前記念公園、大手門櫓形跡広場、辰巳の御庭などのパブリックスペースを再設計（再整備） ➢ 道路や河川等の活用を見据えた再設計（再整備） ➢ 新庁舎整備に合わせて、現在の本庁舎敷地のあり方を検討 ➢ まちなかアートproject、アーティストバンクの充実により、まちなかで文化芸術に触れる機会を拡充 ➢ 多様な主体による、多様な活動を促進するための規制緩和や手続きの簡便化
	③ “安心・自由”に移動できるモビリティネットワークを実現	● 環境負荷を軽減し、モビリティの選択肢が増えるよう、徒歩や自転車のアクティブ交通と公共交通を長期的な視点で改良 ● まちの活動を支える社会基盤として、誰もが安心して「自由に移動できる」「動き回ることができる」環境を実現 ● 松本駅と駅前広場を核に、交通の量と密度、スピードをリデザインすることで、まちなかの経済活動や社会生活を充実	➢ 幹線道路の交通処理機能をテクノロジーの活用を含めて強化しつつ、松本駅から松本城までの道路空間を再配分し、歩行者の通行環境の向上と沿道建物の連動を促進 ⇒道路空間の再配分により生み出した空間をウォーカブル、バス停、荷寄せ空間として活用 ➢ 都市軸の起点である松本駅、駅前広場、バスターミナルを含む一帯を、徒歩や自転車、公共交通を主軸に複数の移動手段がストレスなく繋がり、多くの人が活動する拠点として再設計（再整備） ➢ 中核エリアへの車の流入を抑制するパークアンドライドやフリッジ駐車場を配置 ⇒松本駅アルプス口等に自家用車専用の駐車場を配置
	④ “多様で高次な”都市施設を包摂する市街地を創造	● 商都としての魅力をアップデートし続け、多彩なサービスを提供するとともに、まちに出る楽しみ、ハレの場としての機能を充実 ● 住む、働く、学ぶ、集う、憩う、育てる、楽しむなど、多様で高次な都市施設を包摂する土地・空間利用をリデザイン ● 多くの建物が更新時期を迎えている松本駅東地区に、周辺の城下町の歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、市民益に繋がる民間投資を誘導	➢ 住む、働く、学ぶ、集う、憩う、育てる、伝える、楽しむなど、松本駅周辺に設置を望む声が多く、これまでの松本にはない新たな魅力を生み出す、多様で高次な都市施設を配置 ➢ まちづくり協定やガイドライン等の作成を通じてパブリックスペースを再設計 ➢ 昭和の区画整理事業から50年以上が経過し、多くの建物が更新時期を迎えている松本駅東地区に、周辺の城下町の歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、範囲、条件等を細かく設定する中で、市民益に繋がる民間投資を誘導
	⑤ “公民学連携”によるまちづくりを推進	● 中・高校生や大学生、若者を始め、まちづくりにかかわる多様な主体が、まちづくりに参画し続ける環境整備 ● ①～④の指針に沿ったまちづくりを進めるために、公民学が継続的・多面的に連携できる仕組みを構築 ● 公民学の連携を通じて、公益性と事業性の両方を実現するまちづくりを進めることで、まちなかに多様なパブリックライフを共創	➢ 検討会議での議論を引き継ぎ、将来の見取り図の視点から、全体及び個別プロジェクトを繋ぎ進捗管理を行う公民学連携の仕組みを検討 ➢ 公（行政）・民（民間）・学（大学等）がお互いに役割分担しながら連携し、パブリックスペースを活用した社会実験等を実施 ➢ 行政による公共投資とパブリックマインドを持つ民間企業の投資を掛け合わせた各種の公民連携プロジェクトを推進

1 5 段階的な取り組みスケジュール

R6年度（2024年度）

～R7年度（2025年度）
短期/1年以内

～R9年度（2027年度）
中期/3年以内

～R16年度（2034年度）
長期/10年以内

中心市街地再設計検討会議を設置

- 市長へ中核エリアの再設計に向けた将来の見取り図を提言

- 計画や仕組みへの反映
- 民間の開発計画と連動するプロジェクト等は速やかに協議・検討に着手

- 各種計画への検討・反映
 - ・ 総合計画
 - ・ 総合交通戦略
 - ・ 立地適正化計画、景観計画
- 全体・個別プロジェクトを繋ぎ、共有・支援する公民学連携の仕組みを検討
- ウォーカブル区域を検討
- パブリックスペースを活用した各種社会実験を検討
- 多様な活動を促進する規制緩和や手続の簡便化を検討

【民間の開発計画と連動するプロジェクト】

- 松本駅周辺の再整備に向けた空間ビジョン・デザインコードの作成
- [検討に着手]
- ・ 松本駅交通ターミナル強化
 - ・ エリア内の具体的プロジェクトに限定した形での建物の高さ制限等のあり方

- 方向性の打ち出し
- 民間の開発計画と連動するプロジェクト等は速やかに事業着手

- 新たな公民学連携の仕組みを構築
- ウォーカブル区域を設定
- グリーンインフラの整備
- 歩行者軸周辺の道路、水辺、公園などのパブリックスペースを再設計
- 交通処理の見直しやテクノロジーの活用等により道路空間を再配分
- 多様な活動を促進する規制緩和や手続の簡便化

【民間の開発計画と連動するプロジェクト】

- 松本駅周辺の再整備に向けた空間ビジョン・デザインコードのもとで、具体的な事業に着手

- 中核エリアの再活性
- 3つのコンセプト・5つの指針の実現

- 新たな公民学連携の仕組みによる都市運営
- 幹線道路の整備
- 車の流入を抑制するパークアンドライドやフリンジ駐車場を整備
- 歩行者軸周辺の道路、水辺、公園などのパブリックスペースを再整備
- パブリックスペースの再整備と合わせて、道路空間を活用

【民間の開発計画と連動するプロジェクト】

- 松本駅周辺の再整備
- 交通ターミナル機能を強化
- 松本駅東地区に多様で高次の都市施設を配置

民間の投資意欲を逸することなくまちづくりを進めるためには、プロジェクトの早期実現に向けた調整が必要

会議	開催日・会場	内容	資料（URL）
中心市街地の再設計・再活性に向けた取組み		・ 取組みの背景、取組みの方向性 ・ 具体的な取組み 中心市街地再設計検討会議の開催、市民意見の聴取など	https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/214/146688.html
中心市街地再設計検討会議		・ 会議の概要（設置目的、設置要綱、委員名簿など）	https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/214/145163.html
第1回 検討会議	R6.7.29 Mウイング6階ホール	・ 次第及び資料 ・ 議事録	
第2回 検討会議	R6.9.30 Mウイング3階大会議室3-2	・ 次第及び資料 ・ 別添資料 検討テーマの整理シート ・ 議事録（要約）	
第3回 検討会議	R6.11.29 Mウイング3階大会議室3-2	・ 次第及び資料 ・ 別冊資料1 松本市公式LINE「どうする中心市街地」に関する〈ご意見・アイデア募集〉の結果 ・ 別冊資料2 市民ワークショップ実施結果（概要） ・ 議事録（要約）	
中心市街地再設計市民 フォーラム	R6.12.15 松本市立博物館1階講堂	・ フォーラム資料 これまでの取組経過と「中核エリア」の将来の見取り図（案） ・ #1 市民フォーラム《将来の見取り図（案）の報告》 ・ #2 市民フォーラム《パネルディスカッション》	https://www.youtube.com/watch?v=SL2gCp-j_9c&t=8s https://www.youtube.com/watch?v=rZGlxGw709c&t=12s
第4回 検討会議	R7.2.14 松本商工会館6階601会議室	・ 次第及び資料 ・ 議事録（要約）	https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/214/145163.html

松本市中心市街地再設計検討会議 提言書

令和7年3月24日 発行

松本市中心市街地再設計検討会議

事務局：松本市 総合戦略局 総合戦略室
お城まちなみ創造本部
産業振興部 商工課
文化観光部 観光プロモーション課
交通部 交通ネットワーク課
建設部 都市計画課
松本商工会議所 地域振興部 地域振興グループ